

本棚を見ることは、その人の嗜好を見ることでもある

旅をする前に読みたい本6選

旅の文章を読みたければ



旅をする木／星野道夫

アラスカを愛し、アラスカに愛された写真家・星野道夫さん。

この本に葉はいらない。どこから読んでもいいし、いつ止めてもいいし何度読んだって構わない。星野さんはいつだって大切なことを伝えてくれる。そして、大切なことは何度でも繰り返し伝えてくれる。あなたが読みたいときに読みたいページから読むことをオススメする。

旅行記を読みたければ



旅情熱帯夜／竹沢うるま

写真家の書く文章というのは、どうしてこうも想像をかきたてるのだろうか。写真家とは、見る仕事だと言う人がいた。竹沢さんの書く文章や、些細な光を写し出す写真は、多くの人が何気なく見過ごしてしまう日常の出来事に彼が気づき、足を止め、切り取っているからなのだろう。彼の旅が、自分の旅とリンクする瞬間がきっとあるはず。

旅の小説を読みたければ



旅立つ理由／旦敬介

観光地化されていく街並み、外国人に対する視線、どうしようもない疲労感、毎日通ったお店、彩り豊かなマーケット。旅中に遭遇する特別ではない日常にいくつかの物語があることで、異国異文化を強く意識する。短編同士の繋がりを感じ始めるとき、人の生涯はいくつもの物語の重なりから生まれていることに気がつく。紀行小説では群を抜いて美しい一冊。

旅の写真集を読みたければ



Makalu／石川直樹

石川直樹さんの写真は、世界のあらゆるところを旅しながら撮影を行う。そのシンプルなスタイルが好きだ。Makaluは、ヒマラヤの山々5部作のうちの一つ。マカルーの頂上から見た作品が印象的だが、石川さんの魅力はマカルーのベースキャンプにたどり着くまでに通過するヒマラヤの村々と、そこで暮らす人々の写真だったりもする。

旅の恋を読みたければ



ライド・ライド・ライド／藤代冥砂

写真家の藤代冥砂さんは若かりし頃に、世界中を旅した。飛行機に乗り、バスに乗り、女に乗り。愛する人と出会い、愛した人と別れ、また愛する人と出会う。美しい景色の話など何一つ書かれていない。人と出会い、心の浮き沈みを体験し、移動することこそが彼にとっての旅なのだ。文章も写真も、ある時期にしか表現できないものがある。僕が世界で一番好きな本はこの本かもしれない。

旅をしているような日常を読みたければ



えいやっ！と飛び出すあの瞬間を愛してる／小山田咲子

著者はもうこの世にはいない。パタゴニアを車で疾走中に横転し、そのまま死亡。享年24歳だった。この本は彼女が上京し、日々の気づきや事柄を綴ったブログをまとめた本である言ってしまうと大学生のブログ本。だが、こんなに心にも響くのはどうしてだろうか。彼女の繊細な精神が、太陽のような華やかさが、怒りを隠そうともしない素直さが、目の前に浮かんでくる。彼女の言葉が、しばらく頭から離れなかった。